

「つとめてやむな」の校訓が生きるまち

# 矢作南学区

YAHAGIMINAMI



## 「つとめてやむな」の学び舎から 新世紀岡崎に伝えたいメッセージ



矢作南小学校の校訓は、大先輩である本多光太郎博士の座右の銘「つとめてやむな」。その意味は「夢に向かって、あきらめずに努力しつづけよう」。この言葉を胸に刻みこんだ子どもたちが、未来のまちを創ります。

### 本多光太郎

1870年(明治3)、新堀町生まれ。鉄鋼や金属の研究者として多大な業績を残し、1916年(大正5)に発明したKS磁石鋼は特に有名。1937年(昭和21)に文化勲章を受賞。東北帝国大学総長、東京理科大学学長などを務めた。1954年(昭和29)、83歳で死去。



徳川家康の故郷でもある岡崎市は、数多くの歴史や文化に触れることができ、産業なども発展しているとても素晴らしいまちです。

岡崎100歳、僕13歳…次の世代さらにその先の世代に住みやすい理想のまちとして受け継がれてほしいです。

### 三井響くん

(平成27年度矢作南小学校6年)



岡崎市ができて100年なんですね。100才のたんじょう日おめでとうございます。

ぼくは、メダカやザリガニをつかまえる事が好きです。でも、メダカが少なくなってきていると聞きました。これからもメダカやザリガニがたくさんいる、きれいな川がある岡崎市でいてください。これからはぼくもメダカがふえるように、きれいな川にしていきたいです。そして、大人になってもこの岡崎市にいたいです。

### 大久保諒彦くん

(平成27年度矢作南小学校4年)



伝統ある矢作南学区で生まれて、地域のみなさんに見守られ、育てていただきました。本当にありがとうございます。

そんな岡崎市は昨年、家康が亡くなって400年とか。そして今年で100才になるとは。え〜っ、びっくりです！おめでとうございます。

将来岡崎を離れたとしても、私のふるさと岡崎市だしこの学区なので、素晴らしいまちであり続けてほしいと思います。

### 長坂彩花さん

(平成27年度矢作南小学校6年)



## 編集後記

表紙写真は、矢作南小学校の校庭にある植樹100年の大松の前で、月一回の一斉下校の際に全校児童、総代、民生委員等のボランティアの皆さんと撮影したものです。

今もJR西岡崎駅周辺では人口が増えています。今後ますます地域住民が交流し、よりよい学区に発展してゆくことを切に願っています。

〔作成委員会〕 江坂進/山本孝義/原田一男/鈴木憲一/波江野公一/稲垣富夫/鈴木静/  
岡崎喜行/黒川市郎/長坂茂治/伊藤仁/本多繁/三浦之照

〔参考資料〕 大和町誌/島坂の町誌/矢南の大松 創立80年誌/矢作町誌/矢作町の歴史/岡崎市史 矢作資料編/つとめてやむな  
〔表紙撮影〕 山田篤 (P2-3写真協力) 故・倉橋春夫氏(戦後写真撮影)/故・杉浦守太郎氏(戦前写真提供)  
〔表紙写真〕 矢作南小学校の大松と発展する町を背に(2016年3月3日撮影)



1 「水潜り橋」と呼ばれた旧渡橋。昭和47年の増水で流失する(昭和27年)



2 操業開始間もないころの東洋レーヨン(昭和38年)



木造校舎時代の矢作南小学校を空から見る。校庭には大松も(昭和42年頃)



矢作農協牧内支所とガソリンスタンド(昭和47年)



門柱の向こうにシボルの大松がそびえる(昭和43年)



3 建設が進む西岡崎駅。駅前には水田だった(昭和61年)



牧内跨線橋建設前の東海道本線東牧内踏切(平成17年)

矢作南学区

まちなりたち

一九〇八年 ■ 明治41

矢作第三尋常小学校が設立

一九一五年 ■ 大正4

明治天皇御大葬記念として小学校に黒松を植樹

一九一六年 ■ 大正5

本多光太郎(東北帝国大学教授)がKS磁石鋼を發明

一九二二年 ■ 大正11

学区内に電燈がともる

一九二三年 ■ 大正12

愛知電気鉄道(現名鉄)矢作橋駅が開業

一九三七年 ■ 昭和12

本多光太郎が第一回文化勲章を受章

一九四五年 ■ 昭和20

桑子と西牧内により自治会組織「大和」を結成

一九四七年 ■ 昭和22

矢作国民高等学校が開校(矢作中学校の前身)

一九四九年 ■ 昭和24

渡水潜り橋の架橋にともない渡諏訪渡船が廃止...1

一九五四年 ■ 昭和29

矢作南保育園が開園

一九五五年 ■ 昭和30

碧海郡矢作町が岡崎市に編入

一九五八年 ■ 昭和33

矢作南部簡易水道が完成

一九六〇年 ■ 昭和35

東洋レーヨン岡崎工場が操業を開始...2

一九六四年 ■ 昭和39

東レ・モノフィラメントが操業を開始

一九六五年 ■ 昭和40

栄屋乳業矢作工場が操業を開始

一九六六年 ■ 昭和41

大和町(桑子町、西牧内町を合併)、昭和町(館出町、小望町、池端町を合併)、島坂町(坂戸町、大字島を合併)を設置

一九六七年 ■ 昭和42

岡崎石工団地が上佐々木町に完成

一九七三年 ■ 昭和48

岡崎大和郵便局が開局

一九七三年 ■ 昭和48

矢作南部簡易水道が上水道化される

一九七三年 ■ 昭和48

新しい渡橋の二車線化と暮戸陸橋が完成

一九七三年 ■ 昭和48

本多光太郎「つとめてやむな」遺訓碑を

一九七三年 ■ 昭和48

矢作南小学校に設置

一九七三年 ■ 昭和48

島坂保育園が開園

一九七三年 ■ 昭和48

渡保育園が開園

一九七三年 ■ 昭和48

大和町の都市ガス供給開始

一九七三年 ■ 昭和48

JR東海道本線に西岡崎駅が開業...3

一九七三年 ■ 昭和48

矢作南学区こどもの家が開館

一九七三年 ■ 昭和48

大和町で下水道の供用開始

一九七三年 ■ 昭和48

渡橋の四車線化が完成

一九七三年 ■ 昭和48

牧内駐在所が大和交番になる

一九七三年 ■ 昭和48

矢作南小学校開校百周年記念式典を挙

一九七三年 ■ 昭和48

鹿乗川湛水防除施設が完成

一九七三年 ■ 昭和48

JR東海道本線に牧内跨線橋が完成

一九七三年 ■ 昭和48

JR東海道本線に牧内跨線橋が完成

昭和初期の小学生たち



戦時中の勤労奉仕。背後の森は白鳥神社



能光の地蔵まつりの子どもたち(渡町・昭和38年)



3 西岡崎駅の開業記念式典(昭和63年)

DATA

人口	15,061人
男性	7,649人
女性	7,412人
世帯数	6,036世帯
面積	8.25km <sup>2</sup>

[2016年7月1日現在]

農村と住宅地と

学区の人口が最初に急増したのは、1960年(昭和35)、名鉄矢作橋駅南に東洋レーヨンが誕生したことがきっかけです。東レに勤める人たちの社宅や民家が周辺に続々と建てられ、水田ばかりだった風景が次第に変化していきました。続いて昭和町で操業を開始した東レ・モノフィラメントも人口流入を促しました。1970年(昭和45)に大和町が市街化区域に指定されると、宅地化や道路の拡幅工事が進みました。そして1988年(昭和63)に西岡崎駅が開業し、岡崎市郊外の住宅地として一気に発展しました。

その一方で現在も米、イチゴ、ナスなどの生産者が多く、農業が盛んです。住宅地と田園がほどよく混じりあい、美しい風景と暮らしやすい環境が両立していることが、矢作南学区の特徴です。



矢作川堤防から見た学区北部の田園風景。堤防下には菜種畑が広がる(昭和31年)

学区の玄関、西岡崎駅

かつて学区の玄関駅は、長らく隣りの矢作東学区にある名鉄矢作橋駅が担っていました。その不便を解消しようと、学区を東西に横切る東海道本線に駅を誘致する運動が始まったのは1947年(昭和22)のこと。二十数年にわたり熱心な陳情が続けられました。昭和40年代の半ばには話が忘れられそうになってしまいました。

しかし、人口の急増を受けて住民の間に再び駅誘致の機運が巻き起こります。学区では、コーヒーを一杯飲んだつもりで毎月数百円の建設費負担金を寄付する「コーヒー一杯運動」も展開されました。そのうち、地主が駅用地として土地を寄付する話もまとまり、1987年(昭和62)1月、ついに国鉄(現JR)が新駅設置を承認。翌年3月13日、学区悲願の西岡崎駅が開業しました。

# 矢作南学区

# まちなものがたりマップ

昔ながらの農村、新しい住宅地、そして石工団地が混じりあう矢作南学区には、名所旧跡や知られざる歴史遺産が数多く残っています。歩けばいろいろなものが発見できる私たちのまちを巡ってみましょう。



**阿弥陀如来〈東本郷町〉**  
1594年(文祿2)頃に黄金色の阿弥陀様が池から発見され、アミダ堂を建てて祀ったが、盗難に遭い御身替の仏像を安置したと伝わる



**天徳院の阿弥陀如来坐像〈筒針町〉**  
957年(天徳元)に創建された天徳院の本尊で、鎌倉時代前期の作。現在は筒針町公民館に安置



**本多光太郎生誕地〈新堀町〉**  
1870年(明治3)、新堀町の農家に生まれた。勉強部屋が東公園内(欠町)に移設され、資料館として公開されている



**鳥居氏発祥地の碑〈渡町〉**  
戦国時代より渡町を拠点に勢力を広げた有力一族。家康に仕え「三河武士の鑑」といわれた鳥居元忠が有名



**力丸塚〈下佐々木町〉**  
あるとき、上宮寺を訪れた都の貴人が乗った御所車に草が絡まり、傾いて動かなくなりました。その力持ちと評判で、矢作川の船着場で働いていた力丸少年。力丸はお礼に家紋を授けられたという…



**善国寺〈渡町〉**  
家康に仕えた「十六神将」を描いた絵(上図)や、1848年(弘化5)に寄進された涅槃図などが伝わる



**鳥居氏発祥地の碑〈渡町〉**  
戦国時代より渡町を拠点に勢力を広げた有力一族。家康に仕え「三河武士の鑑」といわれた鳥居元忠が有名

## 矢南の昔話

### E お田植え観音〈富永町〉

ある年、流行り病で多くの村人が臥せってしまい、田植えが滞った。皆が困っていたところ、村のお堂に祀られている観音様が、夜中にこっそり田植えをしてくれだ。清泰寺の観音像がそれで、奈良時代の高僧・行基の作と伝わる。



## 矢南の昔話

### G 桑子神社跡の犬頭石〈大和町〉

ある和尚さんの飼犬が村の蚕をみんな食べてしまった。その犬の鼻から白い糸が二本出ている。手繰ってみると上等な絹糸で、あとからあとからどんどん出てくるではないか。村人と一緒に巻き取っていると、不意に糸が切れて犬は石になってしまった。その石は桑子神社跡にあり「犬頭石」と呼ばれている。



## 矢南の昔話

### L 力丸塚〈下佐々木町〉

あるとき、上宮寺を訪れた都の貴人が乗った御所車に草が絡まり、傾いて動かなくなりました。その力持ちと評判で、矢作川の船着場で働いていた力丸少年。力丸はお礼に家紋を授けられたという…



**力丸塚〈下佐々木町〉**  
あるとき、上宮寺を訪れた都の貴人が乗った御所車に草が絡まり、傾いて動かなくなりました。その力持ちと評判で、矢作川の船着場で働いていた力丸少年。力丸はお礼に家紋を授けられたという…



**H 妙源寺柳堂〈大和町〉**  
1314年(正和3)に建立された檜皮葺の寄棟造で、国指定重要文化財。聖徳太子の木像が安置されている



**I 石工団地神社**  
岡崎石工団地協同組合設立10周年の1974年(昭和49)に創建。総御影石造りの威容を誇る



**J 上宮寺〈上佐々木町〉**  
聖徳太子の発願で開かれた古刹。蓮如上人とのゆかりが深く、三河の浄土真宗の拠点として一向一揆の舞台となった



**K 日枝神社〈上佐々木町〉**  
250年前に建立された旧拝殿に見事な屋根飾りの龍があり、1995年(平成7)の拝殿改築でも再利用された



**M 酒人神社〈島坂町〉**  
日本で最初に清酒を醸造した酒人親王を祀る。毎年11月第1土曜(または第1日曜)に行われる酒まつりでは清酒や甘酒が振る舞われる

歴史を伝え、未来につなぐ

# 矢作南学区の多彩なまつり

私たちの学区では、伝統的な祭礼から近年始められたイベントまでさまざまなまつりが行われ、地域をひとつに結びつけています。

川面に灯が揺れる光景は感動的!

## 東本郷町

### 飛鳥神社大祭の巫女の舞

◎毎年10月第2土曜

始まったのは1936年(昭和13)ごろ。1959年(昭和34)の伊勢湾台風で地区が大被害を受け、また青年団員の減少もあって神楽・巫女の舞は一度途絶えてしまいました。しかし1973年(昭和48)頃に新たに稽古を受けて復活。その後は小学校高学年が低学年を指導し、現在まで受け継がれています。



町の子どもの晴れ舞台

## 大和町

### 男祭り

◎毎年10月第2日曜

厄年会のアピールと、町内の友和を祈願し懇親を深めるため、1999年(平成11)に始まりました。白鳥神社大祭にあわせて行われ、毎年40名以上の男性が参加します。参拝のあと町内を練り、最後は下帯姿の厄男が湿田の中で竹を登り、竹割をして年の吉凶を占います。



勇壮な男たちに観衆の目が釘付け

白鳥神社大祭では子どもたちも活躍



## 島坂町

### 島坂かのり川夏祭り

◎毎年8月15日

有志で催していた「灯ろう流し」が発展し、現在は地域ぐるみの行事としてにぎわっています。日中は公民館でレクリエーションを楽しみ、午後7時、400個以上の灯ろうに火を灯し、先祖への感謝と平和への祈りを込めて神明橋から流します。祭りのフィナーレには火文字、ナイアガラ、大花火が夏の町を彩ります。



## 石工団地

### 団吉くんまつり

◎毎年4月第4土・日曜

力をあわせてみんなで引っ張れ!

1997年(平成9)より行われている春の恒例イベントです。石製品の掘出し市をはじめ、巨石曳ぎや巨石割り体験、クイズラリーなど大人も子どもも楽しめる催しがいろいろ。石工団地の人気キャラクター「石丸団吉くん」が会場を盛り上げます。



ぼく、石丸団吉も待ってるよ!



## 昭和町

### 昭和町運動会

◎毎年10月末

ひとつの町が単独で開催する市内でも珍しい運動会です。長らく会場にしていた広場がなくなったので一時途絶えましたが、2009年(平成21)に東レ・モノフィラメントのグラウンドを会場に復活。町民がこぞって参加し、親睦を深めています。



笑顔がはじける手作りの運動会

### 矢作南学区のビッグイベント 夏祭り&文化祭

◎夏祭り 毎年8月14日

◎文化祭 毎年文化の日前後

どちらも小学校を会場に開催される学区総出の恒例行事です。

夏祭りは戦後から青年団の主催により行われていましたが、昭和40年頃に終了してしまいます。それから約50年後の2010年(平成22)、学区社会教育委員会を中心とした学区民有志の尽力で復活しました。約2500人が来場し、盆踊りやバザーなどで盛り上がります。

文化祭は1974年(昭和49)に始まりました。当初は各家庭のたからものの展示が中心でしたが、年々規模が拡大しています。大松の周囲を走る丹羽鉄工所(渡町)製のミニSL、だんごや「矢南汁」が味わえるバザー、地元産野菜の即売会などが人気です。また「子どもまつり」も同時開催されます。



日没前から踊り盛り上がる夏祭り



文化祭のSLは子供たちに大人気!